



南郷

札幌市立南郷小学校

学校だより 第3号

令和8年 5月29日

【学校電話】011-861-9305

【学校ホームページ】

<https://www.nango-e.sapporo-c.ed.jp/>



「子どもの輝きを発見する」

～運動会の『見方』もアップデートしませんか？～

校長 関根 治彦

「校長先生、どうして泣いているの？」

最近は何を取ってきたせいか、子どもたちの頑張っている姿に感動して涙する機会がすっかり増えてしまいました。運動会の児童公開日で感涙しているときに、子どもに顔をのぞき込まれ、言われた言葉です。

さて、いよいよ今週末は、子どもたちが心待ちにしている『運動会』が開催されます。白線を引く教員の横で「今年は絶対に1位をとるよ」と意気込む子、ダンスのステップを友達と教え合う子、運動が少し苦手で緊張した面持ちを見せる子。アプローチは違えど、子どもたち一人一人が自分なりの目標に向かって、日々練習に励んでいます。

この『運動会』を迎えるにあたり、今年、保護者の皆さまや地域の皆さまとともに共有したい一つのテーマがあります。学校だよりの前号では『当たり前のアップデート』について書かせていただきましたが、今回は応援する私たちの「見方のアップデート」です。

昭和から平成、そして令和へと時代が移り変わる中で、学校の在り方や教育の価値観も少しずつ変化してきました。かつての運動会といえば、足の速い子がヒーローになり、赤白の勝敗に一喜一憂する『競争』の色合いが濃いものでした。もちろん、勝負にこだわり、勝って喜び、負けて悔し涙を流すという経験は、今も昔も子どもたちを大きく成長させる貴重な機会です。

しかし、現代の教育において私たちが最も大切にしたいのは、『結果』という目に見える数字だけではありません。そこに至るまでの『プロセス（過程）』、そして一人一人の『内面のドラマ』です。3年前の通知表に関する巻頭言にも書かせていただきましたが、今の評価の主流はAKB48の『365日の紙飛行機』という曲の以下のようなフレーズにあるように過程を評価するものです。

「その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか それが一番 大切なんだ」

運動会は、足の速い子だけのものではありません。運動が苦手な子が、毎日の練習から逃げずに当日スタートラインに立つこと。それ自体が、すでに大きな『挑戦』という名の金メダルです。また、集団行動やダンスの練習の中で、『友達と呼吸を合わせる楽しさ』を知ったり、係活動で『誰かのために責任を果たす喜び』を学んだりする子もいます。

私たち、教職員は運動会の練習から子どもたちの頑張ってきた様子を見て、運動会当日の子どもたちの姿を見ます。当然、頑張っている姿の裏にある当日までの頑張りの様子が分かって見えています。保護者地域の皆様におかれましては、難しいお願いであることは重々分かっているのですが、頑張っている過程を想像して、是非応援の『モノサシ』を少しだけ変えて、子どもたちを見つめてみていただきたいと思います。

例えば、徒競走。順位だけでなく、「最後まで諦めずに腕を振って走りきった姿」に注目してみてください。例えば、表現（ダンス）。上手か下手かではなく、「指先まで意識を向けようとする真剣な表情」や、「友達と目が合っただけの笑顔」を探してみてください。そして、もしも転んでしまったり、バトンを落としてしまったりした子がいたら、その失敗ではなく、「その後立ち上がって、再び前を向いて走り出した強さ」に、より大きな拍手を送っていただきたいのです。子どもたちのその姿に当日までの頑張ってきたことでの成長があるはずですよ。

「誰かと比べて1番になること」だけが成功ではありません。「昨日までの自分を超越しようとした瞬間」や「仲間のために一歩踏み出した瞬間」こそが、私たちが最も称賛すべき子どもの輝きです。周りの大人が結果だけでなく、そのプロセスに気付き、言葉にして褒めることで、子どもたちの自己肯定感は大きく育まれます。

時代とともに、プログラムの工夫やスリム化など、運動会の形は変わっていくかもしれません。しかし、子どもたちが汗を流し、仲間と心をつなげて輝く場所であるという本質は、これからも変わることはありません。

保護者の皆様の温かい眼差しと拍手は、子どもたちにとって何よりの特效薬であり、次の一歩を踏み出す勇気になります。当日は是非、新しい視点のモノサシを胸に、『見方をアップデート』して、子どもたちの『一生懸命』という最高のドラマを、私たち教職員とともに全力で応援し、共有しましょう。皆さまの御来校を、心よりお待ちしております。